

「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会
第2回公共交通優先のライフスタイル検討部会 摘録

1 日 時 平成 20 年 11 月 10 日（月）10 時 00 分～11 時 45 分

2 場 所 京都市消防局本部庁舎 7 階 「作戦室」

3 出席者 別紙出席者名簿

4 議事次第及び内容

（1）開会

（2）議事

ア 第2回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会の主な意見等について

イ 他の検討部会との連携等について

ウ 歩行者優先憲章及び「歩くまち・京都」市民アンケートについて

（3）意見交換

（委員）

- 地域によって様々な問題点が明らかになっているので、それを細かく詰めていくと改善の足がかりが見えてくると感じた。
- 第二京阪道路をクルマで走っていても交通量が少なく、そのような高速道路に公共交通の快速バスなどを走らすことにより、無駄をなくす工夫も考えられるのではないかと。
- バスについては、利用者が実際に行きたいところに行けない路線も結構あると思う。モニターオールでは、バスは縦方向・横方向にそれぞれまっすぐ走っている。京都は碁盤の目であるので、そのような路線網も考え方としては有りうるのではないかと。また、外国では乗継ぎが無料となっている。京都でも検討もしてはどうか。

（委員）

- バスの路線については乗換えの問題もあるが、それ以上に分かりやすい路線に整理することも重要だと認識している。

（委員）

- 京阪神都市圏パーソントリップのデータが出ているが、調査方法や時期等について教えてほしい。特定の日を対象としているのか。1ヶ月間の平均としてお聞きしているのか。

(事務局)

- 10年に1度、京阪神都市圏を対象に、エリア内にお住まいの方から43万人を無作為抽出し、出発地、目的地、利用交通手段など10月の平均的な通常の1日の行動を聞いている。京都市内では3万人にご協力を頂いている。

(委員)

- 補足説明すると、日記のような形で1日の移動を書いてもらっている。時期については、紅葉の時期等を避けつつ、通常の行動と思われる平日の1日の動きを調査している。

(委員)

- 最新が平成12年ということだが、10年に1回というのも問題である。京都市だけでも個別に最新の状況を調査されると良いのでは。

(委員)

- ラジオのリスナーの方からいろいろなご意見を伺う機会があるが、お住まいの地域によって差がある。リスナーの方のご意見を紹介する。「地下鉄は移動時間の無駄がないので出来れば利用したいが、自転車以最寄り駅まで30分かかるうえに、駅まで向かうバスの本数が減り、京都駅まで行くには非常に不便である。人口の少ない地域は切り捨てられたようで不愉快。エレベータの分かりにくさも問題。案内板を探すのにも時間がかかる。」というご意見を頂いた。
- また、別の地域にお住まいの方は、「通勤時間帯の地下鉄は混んでいるが、昼間に地下鉄を利用するのは主婦とお年寄りの方が多い。そのような方が地下鉄沿線に行きたい場所がなく、たまにお出かけする程度では利用は増えない。観光客や修学旅行に沢山乗ってもらえるよう、乗り放題きっぷのPRを推進すべきでは。」というご意見を頂いている。
- 地域によって意見が違うので、地域別に課題を検討していくことが重要である。

(委員)

- 私は原谷で生活しているが、京都市内には、私の所より更に不便な地域があることを再認識した。例えば、桂坂から中心部までは、非常に時間がかかるという声も聞く。中心部ではクルマを使わない方もおられるが、郊外ではクルマを使わざるを得ない地域がある。そのような地域において、公共交通が利用できる路線も考えてほしい。
- 地下鉄については、烏丸線は京都駅等行く用事があるが、東西線沿線には利用する目的のある所が少ない。中心部の100円循環バスも、平日も含めて走らせたりすると良いと思う。
- LRTも良いと思うが、今出川通で導入するのは難しいのではないかと感じている。もっと狭い路地のクルマの通過を規制し、LRTやIBTの専用道としてしまうなど考えられる。そのような施策を組み合わせることで公共交通を便利にし、スムーズに移動できるようにしてほしい。

- 郊外から中心部へ行く交通手段が少ないので、もっと便利な公共交通があると良い。逆に、便利にしない限り、そのような地域の方がクルマから公共交通へ転換するのは難しい。

(委員)

- 部会では中心部の交通の議論が中心となりやすいが、郊外の問題も整理する必要がある。

(委員)

- ラジオのリスナーの方のご意見は非常に良い。地下鉄をこれ以上作るのは難しいが、案内板を分かりやすくすることなど、出来ることからすぐに改善すべきである。少なくともそういうご意見は重く受け止めるべきである。
- 海外では、乗り継ぎがほぼ無料ある。なぜ日本で出来ないのか。もう少し事業者同士が本当に連携して改善を行ってほしい。
- バス事業者は地域の方のご意見を常日聞かされて辟易している感じを受けるが、むしろ事業者側から意見を聞きに行くぐらいの気概が必要である。海外や日本の大手企業では、苦情や意見を聞く機会を持っている。交通事業者がそれをやらないのは許せない。100の意見を聞けば、1つでもすぐに改善出来る良い意見がある。
- 140万の住民の思いを結集すると、トランジットモールなどは実行したほうがいいに決まっている。渋滞や事故の懸念も確かにあろうが、地域全体のことを考えたらトランジットモールにすべき所はいっぱいある。

(委員)

- 良い企業ほど、ユーザーからのクレームをうまく使って、単に自分たちに対する文句という捕らえ方でなく、発展の方向に持っていくことが出来る。
- トランジットモールの話については、課題は多いが、100点満点を目指していると時間がかかり過ぎて何もできないので、どこかモデルゾーンを作ることによって、具体的に見せていく事が重要である。中心部がモデルになり易いと思うが、低炭素のまちづくりを進めていく中で、特定のモデルゾーンでの検討をまず進めていくべきである。実行に向けて障害があるとすると何か、逆に教えてほしい。

(委員)

- 都心と郊外のそれぞれの違うモデルで検討することも大事で、それらの検討を連携させる仕組みが必要。

(委員)

- 現在、京都市内の道路の使い方に関するシミュレーションをしているが、地区によって道路の使い方が時間帯で違うことが分かってきた。地区ごとに交通のあり方を考えていかねばならないと感じている。既存のデータでは分析できない部分もあるが、様々なデータを用い

て多角的に分析する必要がある。シミュレーション手法を使ってお見せすることは可能かも知れない。

(事務局)

- 審議会でも、もっとデータを使った分析をするべきとのご意見を頂いている。また、未来の公共交通まちづくり検討部会において、地域ごとの交通課題の検討を進めているところであり、関係機関等でデータのやり取りをしながら分析を深めていきたい。

(委員)

- 現在、近畿運輸局でもエコ通勤の取組を推進しており、京都市でも8月に取組の応募をいただいた。公共交通の利用を少しでも高めようと取り組んでいるので、各事業主からもどんどん応募いただきたいと考えているところである。

(委員)

- かつて「ノーマイカーデーは、『車を使わないと不便』であることを再確認するようなものだ」と皮肉を言った人がいたが、公共交通システムの改善とライフスタイルの改善のコラボレーションを考えていく必要がある。

(委員)

- 1日だけのノーカーデーはあまり意味がなく、持続的に取り組むことを考えていく必要がある。

(委員)

- エコ通勤については、1日だけではなく、未来永劫公共交通に乗り換えてもらうような施策展開を考えており、10人に1人をクルマ以外の交通手段に切替て頂くことを目標に、国土交通省でも取り組んでいる。
- パーソントリップ調査の説明で1つ特徴的な点を補足すると、交通手段分担率で徒歩が少ないのは、人間がだんだん怠惰になっていることを示している。また、鉄道利用が増えているのは、地下鉄が整備されたからであるが、多額のお金を使っても、バスも含めた公共交通の利用は減少しており、自動車や自転車が増えている。人間が怠惰でなく、もっと歩きさえすれば、この状況は一変する。「歩くまち・京都」を目指す基本理念はここにある。

(委員)

- ある先生から『怠惰』は人間性の本質であり、環境の取組はその人間の本質と逆行しているので成功しない」というご意見を頂いたことがある。当然私は反論するのだが、そういう人間の（怠惰な）本質を認めた上で取り組んでいくのか、そうでないのかは判断の分かれ目かも知れない。

(委員)

- もし人間が怠惰だとすると、その方に言わせると「京都は非人間的な街」なのか、ということになる。先人たちが大変な努力をしてまちづくりをしてきたからこそ京都という街があり、これをさらに拡張してより京都らしくするためには、やはり歩くことが重要で、それがエコにもつながる、との反論も出来る。

(委員)

- その意見は王道の反論であるが、「現実はそのではないのでは」と言われたときにどう考えるか。情報の伝達が不十分、教育に問題がある、などの複合的な要因もあるが、どのように環境や歩くことに対してのインセンティブを生み出すのが難しい。

(委員)

- 3日前にラジオで、京都市内の公共交通に関する情報（臨時便など）をお伝えしたところである。ホームページなどに掲載されている情報を伝えようとしたのだが、交通局の情報は分かりにくい。例えば、阪急電鉄は西宮北口から嵐山までの直通電車の運行について、時刻まで含めて情報提供をしている。交通局はそういうきめ細かい情報まで出していない。本気で京都市が頑張って進めるのであれば、今すぐに交通局が出来ることがある。審議会や部会の議論を待っていたら抜本的な改善にならない。もう少し緊張感を持って取り組んでほしい。
- 市民アンケートで意見を聞くことも重要だが、並行してお金がかからないこと、例えば交通局職員が自身の問題として自分の通勤経路で不便な点を出してもらう、などをすると良い。

(委員)

- 都市鉄道等利便増進法が出来た関係で、運輸政策研究所が全国の交通結節点を視察し、優良事例と不良事例を紹介している。四条駅は残念ながら全国でも有数の不良事例であり、これは恥ずかしいことである。すぐ出来ることはすぐ改善して欲しい。四条駅では知らない人がバスに乗ろうと思っても絶対に分からない。バス停や出口が沢山ある上に、案内板もどこにあるのか分からない。利用者視点に立っていない証拠である。

(委員)

- 歩行者憲章については、もう少したたき台として中身を出した方が、意見が言いやすい。
- どのような施策を実施しても、必ず反対の意見は出る。変革をすると必ずそうだが、ただ変革を恐れていると何もできないし、これまでの行政の取組も、微修正や改良の繰り返しで袋小路に入っているような状態である。抵抗を乗り越えるには、役所だけでは難しく、そのための組織が育たないと難しいのかも知れない。

(委員)

- 「進歩は素晴らしいが、時として摩擦を生み、その摩擦は敵を作る。」という言葉聞いたことがある。進歩と摩擦・敵は表裏一体と思うが、しかし敵を怖がっていると進歩はない。90点の施策でも、残り10点の副作用を過大に気にしすぎると90点の効果が失われてしまう。副作用もゼロに近づける必要はあるが、100点を目指すに進まない。まずモデルゾーンで具体的な事例を見せていく、出来るところからやっていくことが重要であり、見せることによって反対している方も意見が変わっていく。

(委員)

- 誰かがその10%の副作用を説得することが必要であるが、その部分は首長に頑張って頂かないといけないのかも知れない。

(4) その他(事務局から)

(事務局)

- 次回の検討部会は12月18日(木)を予定している。市民アンケートの速報報告、歩行者優先憲章の検討、他の部会での議論に関するご意見聴取などを予定している。

(5) 閉会(水田交通政策監)

- 貴重なご意見を賜り感謝したい。先日、門川市長は、パリから帰国され、京都の魅力を世界の人にも分かるように伝える必要性を強く感じられたようである。これまで行政は単に「1200年の悠久の歴史」や「ものづくり都市」といった表現だけしかできていない。これでは京都の魅力を十分に世界に伝えることはできない、と叱責されていた。本日も各委員から真摯なご意見、そして京都のありようについてもご議論頂き、身にしみてありがたいと感じている。
- 第1回審議会において、内藤先生から「京都が京都議定書の目標を達成出来ないのであれば、京都議定書のまちという看板を降ろしたらどうかと思っていたが、もう一度だけこの審議会に賭けてみたい。」と言われたことを思い出して、改めて気を引き締めている。
- 村上委員のご意見はごもっともであり、行政の考える課題と市民感覚とのズレを痛感している。すぐにできることは、全力を挙げて実施したい。
- 京都市の年間観光客4944万5千人の13.5%にあたる約670万人もの観光客の皆様が、まさにこの11月に京都に訪れて頂いており、中には、すでに厳しい交通環境を体験しておられる方もおられると思う。市民の皆様も大変な状況を実感している中、少しでも課題を克服することが我々の使命と認識している。委員の皆様からは、今後さらに厳しいご意見を頂戴したい。また、お忙しい中、傍聴にお越し頂いた皆様もありがとうございます。本日は誠にありがとうございました。

「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会
第2回公共交通優先のライフスタイル検討部会 出席者名簿(敬称略)

	所 属 等	出 席 者
部 会 長	京 都 大 学	名誉教授 内藤 正明
副部会長	東 京 工 業 大 学 大 学 院	理工学研究科教授 藤井 聡
	京都市教育委員・スポーツコメンテーター	奥野 史子
	株 式 会 社 京 都 放 送	報道局アナウンス部長 村上 祐子
	市 民 委 員	上田 文博 村下 舞子
	京 都 商 店 連 盟	会長 早瀬 善男
	京 都 大 学 大 学 院	工学研究科助教 菊池 輝
	国 土 交 通 省	近畿運輸局交通環境部環境課長 生嶋 繁樹 京都運輸支局首席運輸企画専門官 羽田 祐治
	京 都 府	建設交通部交通対策課参事 籠見 徳彦
	京 都 府 警 察 本 部	交通部交通規制課課長補佐 前田 昭人 交通部交通規制課係長 山口 正則

京 都 市 (事務局 課長級以下略)	交通政策監	水田 雅博	都市計画局歩くまち京都推進室長 佐伯 康介
	総合企画局地球温暖化対策室長	黒田 芳秀	環境局環境企画部長 岡田 憲和
	文化市民局市民生活部長	鶴谷 隆	保健福祉局保健衛生推進室部長 高木 博司
	建設局土木管理部担当部長	二木 久雄	建設局道路建設部担当部長 佐伯 英和